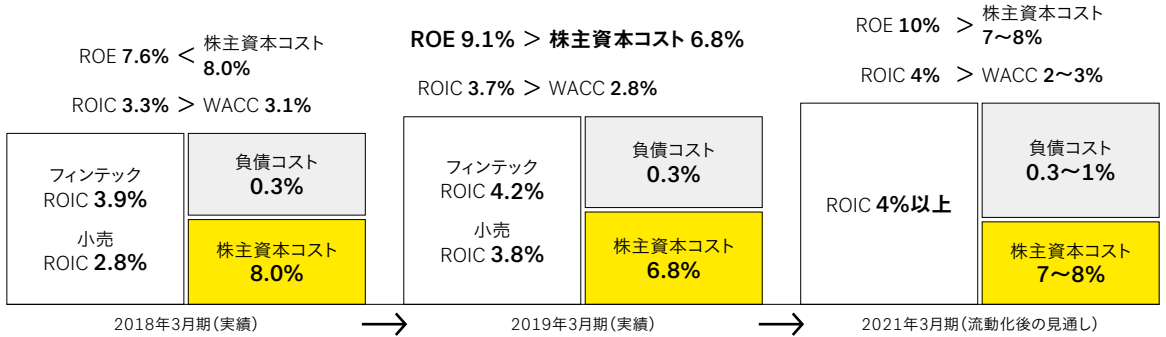


めざすべきバランスシート

01 POINT

ROIC>WACC、ROE>株主資本コストによる企業価値創造

利益の向上と資本コストの低下により、ROEが初めて株主資本コストを上回り、ROICはWACCを安定的に上回る



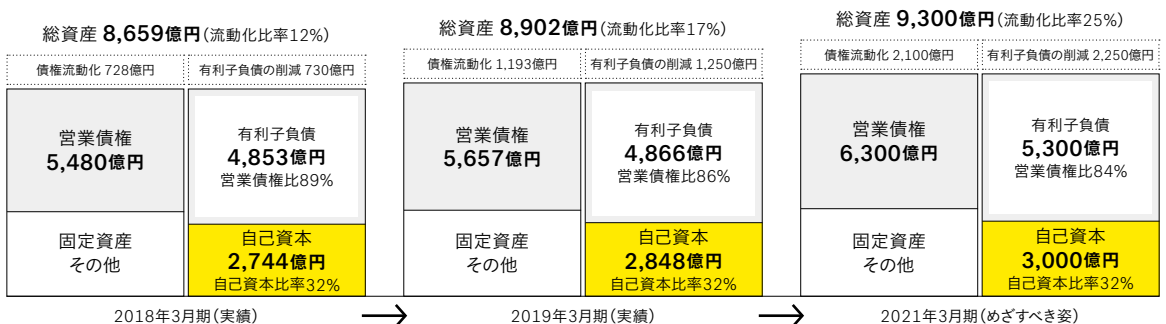
2019年3月期は、利益の向上によりROEが大きく上昇し、初めて株主資本コストを上回る水準となりました。また、小売セグメントのROICを大きく向上することができ、3期連続でROICがWACCを上回りました。今後はバランスシートを使わずに高い

収益性が実現できるビジネスをめざし、LTVの大きい事業を積極的に展開することにより、さらなる資本効率の向上を図り、2021年3月期にはROE10%以上、ROIC4%以上をめざします。

02 POINT

「めざすべきバランスシート」

営業債権の拡大には有利子負債の調達で対応、最適資本構成として、自己資本比率30%程度を目標に設定
営業債権の流動化による資金調達を拡大し、2021年3月期の総資産は1兆円以下に抑制、自己資本比率30%前後を維持



2021年3月期を最終年度とする中期経営計画では「めざすべきバランスシート」の構築を掲げ、営業債権の拡大に対しては有利子負債の調達で対応、有利子負債は営業債権の90%程度を目安とし、自己資本比率は当社グループにとって最適と考える30%前後を目標とすることを定めています。

フィンテックの成長により営業債権が当初の計画を上回り、有利子負債の増加にともない自己資本比率は30%を下回る見込

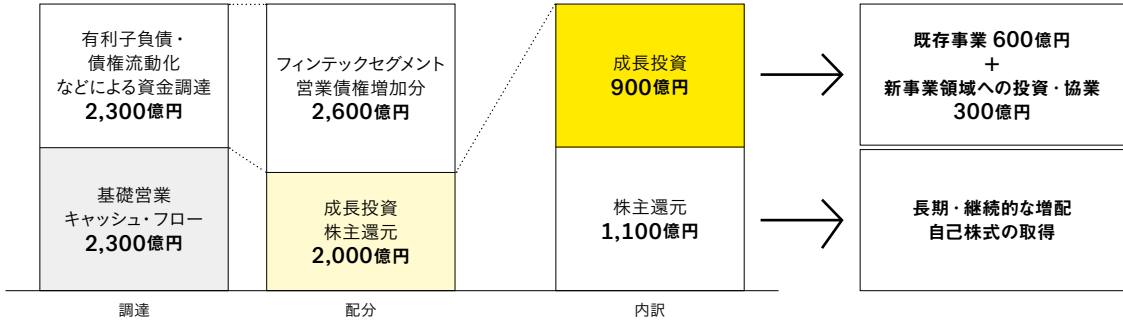
みとなったため、2019年3月期より営業債権の流動化による資金調達を計画的に拡大することにしました。2019年3月末に営業債権の17%まで進捗した流動化を2021年3月末には25%程度までに高め総資産を1兆円を下回る水準に抑制、自己資本比率は目標である30%前後を維持し、最適資本構成をめざします。

03

POINT

キャッシュ・フローの計画

中期経営計画5年間(2017年3月期～2021年3月期)の基礎営業キャッシュ・フローの見通しは2,300億円
持続的な成長と資本効率向上に向け、成長投資と株主還元



中期経営計画期間中の営業キャッシュ・フローから営業債権の増加による資金支出等を除いた基礎営業キャッシュ・フローは2,300億円を計画。うち2,000億円は成長投資と株主還元

に配分する予定です。成長投資は900億円とし、うち300億円は新事業領域へ投資し、協業を通じて本業の拡張と革新につ

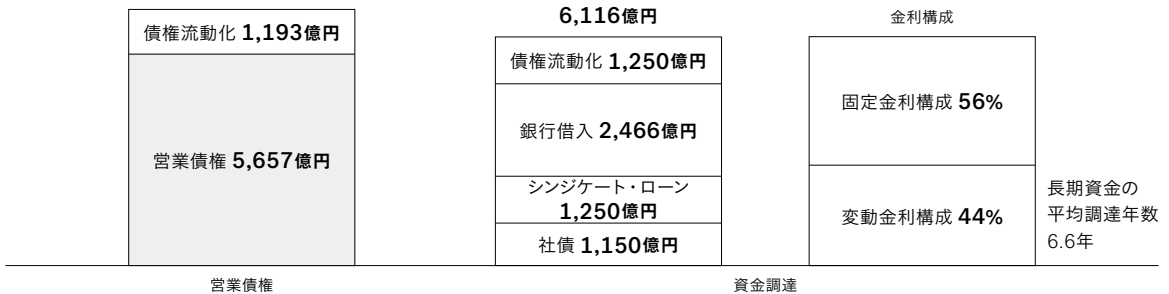
04

POINT

資金調達リスクと金利上昇への対応

調達環境の急激な変化に備え、安全性を第一に返済の平準化とバックアップ体制を確立
多様な調達メニューを適切なバランスで組み合わせ、リスクと調達コストの抑制に取り組む

2019年3月期



引き続きフィンテックの成長が見込まれる中で今後も資金調達の拡大が続くため、当社では金融市場の急激な変化をリスクと認識し「安全性」および「コスト」の観点からその対応を行っています。

まず、毎年の返済額の平準化を図るとともに、その資金の借り換えができないリスクをヘッジするためコミットメントラインなど

のバックアップ体制を整えています。また、銀行借入、シンジケート・ローン、社債に加え営業債権の流動化にも取り組み、調達メニューの多様化を進めています。各調達メニューのバランスを図るとともに、その中で固定金利の構成を50～60%に設定し今後の金利上昇リスクを吸収しつつ調達コストを抑制しています。